

当院で実施される下記の臨床研究はオプトアウトにより実施します。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、これらの研究にご自身の診療情報を使用してほしくない場合は各研究の担当者までお問合せください。

| | |
|------------------------|---|
| <p>研究課題 (承認番号)</p> | <p>真菌が関与する好酸球性呼吸器疾患に生物学的製剤を使用した症例の検討</p> |
| <p>担当科及び研究責任者</p> | <p>呼吸器内科 医長 石黒 卓</p> |
| <p>利用目的</p> | <p>近年、好酸球やサイトカインを標的とした生物学的製剤が臨床の現場で使用できるようになった。これにより従来の内服薬ではみられなかった治療効果を得た症例を多数経験してきた。</p> <p>過去にわれわれは、抗 IL-5 抗体であるメポリズマブによって改善したアレルギー性気管支肺真菌症の症例を経験した。それ以外にも抗 IgE 抗体製剤が有効だったアレルギー性気管支肺アスペルギルス症例が海外から報告されている。</p> <p>肺真菌症の代表的な疾患である肺アスペルギルス症は、臨床的に侵襲性アスペルギルス症、慢性肺アスペルギルス症（慢性進行性アスペルギルス症、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症）に分類される。なかには、末梢血の好酸球数が増加して慢性進行性アスペルギルス症とアレルギー性気管支アスペルギルス症を併発したような症例がいる。このようなケースは一連の疾患スペクトラム上にあると考えられるが、このような方で生物学的製剤がどの程度有効かを調査した研究はない。そこで、今回われわれは日常臨床において生物学的製剤が使用された慢性肺アスペルギルス症例を後方視的に調査してその意義を確認する必要があると考えた。</p> |
| <p>研究の対象者及び対象期間</p> | <p>2021 年 4 月末までに埼玉県立循環器・呼吸器病センターで真菌感染に伴う好酸球性呼吸器疾患に対して生物学的製剤の投与を受けた症例。</p> |
| <p>研究の方法</p> | <p>カルテ調査</p> |
| <p>問い合わせ先</p> | <p>代表：048-536-9900</p> |
| <p>備考</p> | |